

HOPES

ホープス セカンド

2nd

「自分でできること」を
前野 かおるさん（伊丹沢）

ご主人がアクセサリーの問屋をしていた関係で、自身も東京都中野区のファッションビル「中野ブロードウェイ」で、2年前までアクセサリーのお店を開いていた前野さん。今年の6月から村に住み、「いいたてホーム」で働いています。

前野さんは、アクセサリー店のお客様から飯館村のことを聞き、福島原発の電力を使っていた二人として、「自分に何かできることはないか」とずっと考えていたそうです。現状を



神奈川県生まれ。東京都内でご主人の事業を手伝いながら、4人の娘を育てました。今年6月から村に住み、介護職員として特別養護老人ホーム「いいたてホーム」で働いています。



村の新しい花「いいたてオリンピア」をモチーフにイヤリングを自作した前野さん。そのことに寄せて東京の友人が贈ってくれた句を大切にしています。
「花一輪 無限の豊かさ 飯館村」

知りたいと、3年前には、ご主人と村を訪れました。「家も道路もそのままなのに、避難の村には誰もいなくて」。同時に村役場の飯野出張所（当時）も訪れ、「いいたてホーム」の職員が不足していることも知りました。その1年前に介護職の資格を取っていたこともあり、「家族の理解を得て村に来れたら」と考えました。そして、子育てが一段落した今年、前野さんの思いは叶いました。

「皆さんがとてもよくしてくださるので」。仕事は施設と相談して、できる範囲からのスタート。「役に立っているかは分かりませんが、（施設の）懐の深さが、居心地のよさにつながっています」。そして「村には東京にないものがたくさんある」と言います。「こんなにきれいな空、素晴らしい樹木」。自然の力を感じるそうです。「3年間はここで頑張りたい」。この取材日には、ご主人が友人と共に来村。家族の応援も、そつと前野さんを支えています。

〈編集後記〉

●「おはようー！つち、つちー」敬老会の朝、会場入り口では、行政区毎にお出迎え。気心知れた地元の方が敬老の皆さんを席まで声をかけなが優しくエスコート。顔見知りだからこそ出来る、「までいなおもてなし」にこちらもほっこりします。会の終わりに参加者がぼつり。「こんなに楽しい敬老会、長生きしてよかった」。皆さん、ずっと長生きしてくださいね。（木幡）

●大久保・外内地区の集会で美味いうどんをいただきました。以前、村のお年寄りから、「小麦をひいて打ったうどんの香りが大好きだったの」と聞いていた話を、「これかー」と思い出しながら。たくさんさんの協力が「うどん」になった過程もまた特別な味いに。「何も言わないけど、石臼で5kgの粉をひいて来たのは長正区長なんだ」と参加者の一人がこっそり教えてくれました。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。